

5

万ーのとき

●工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所	386
工具の種類	387
発炎筒について	387

●故障したとき

踏切で動けなくなったとき	388
高速道路で故障したとき	388
道路で動けなくなったとき	389
故障の修理について	389

●事故が起きたとき

●けん引

けん引されるとき (ロープによるけん引)	392
故障車をけん引するとき	395

●パンクしたとき

ジャッキの取り扱い	396
応急用スペアタイヤ	398
タイヤ交換	399

●オーバーヒートしたとき

	408
--	-----

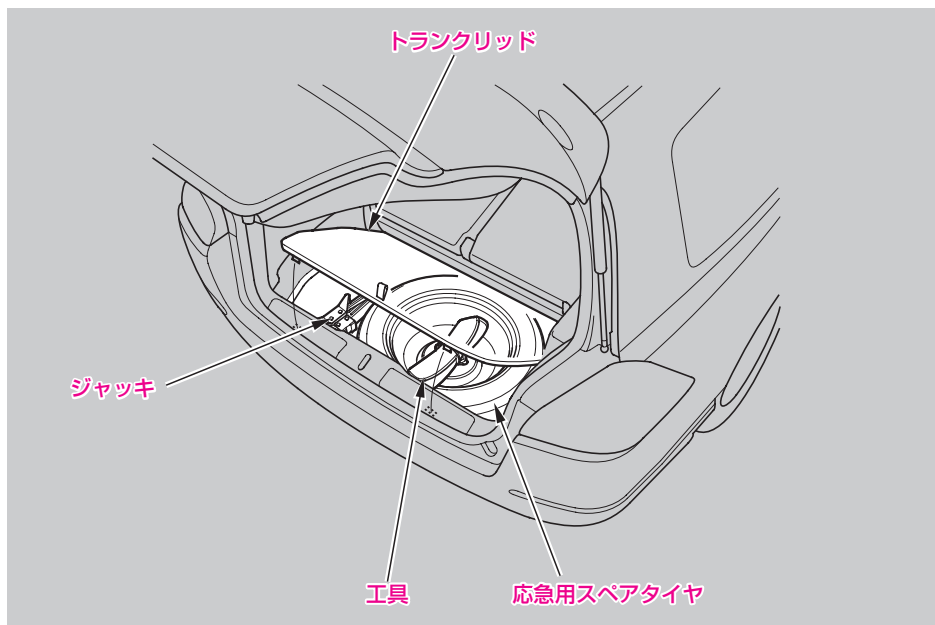
●電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき	410
ライト類が点灯しないとき、 電気装置が 作動しないとき	412
パワーテールゲートが 開かないとき	431
パワーテールゲートが確実に 閉まらないとき	432
テールゲートの解錠が できないとき	433
電動サードシートが 作動しないとき	434
サンルーフが作動 しないとき	436

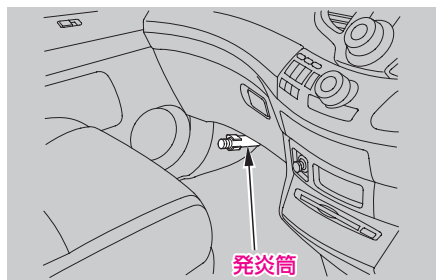
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ



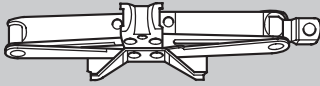
●発炎筒



発炎筒は助手席足元にあります。



工具の種類



ジャッキ

ホイールナットレンチ
(兼ジャッキハンドル)サンルーフレンチ
サンルーフ装備車

グリップ



ジャッキハンドルバー

アイボルト
(けん引用)

ドライバー

知識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- ・ 使いかた
- ・ 使用上の注意
- ・ 発炎時間
- ・ 有効期限

警告

- ガソリンなどの燃えやすいものそばでは使わないでください。火災や爆発のおそれがあります。

注意

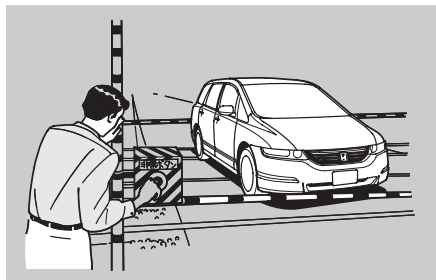
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔や身体に向けてるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板(または停止表示灯)、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

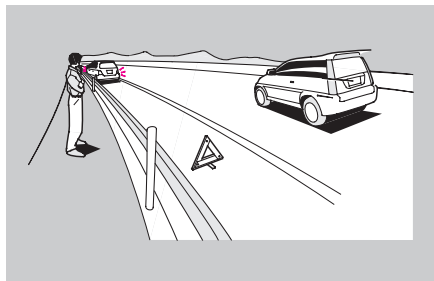
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板(または停止表示灯)を置いて表示してください。法律で義務づけられています。



人は車からおりて、安全な場所に避難してください。



道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押ししてもらってください。



知識

- オートマチック車はスターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

Honda販売店へお申しつけください。



お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。

お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。

遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。

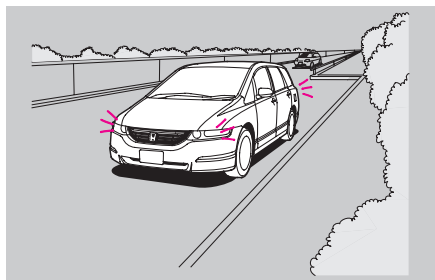
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1 事故の続発を防ぐ。

他の交通の妨げにならないような安全な場所(路肩、あき地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。



2 負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



🎓 知識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。



3 警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



4 相手方、事故の状況をメモする。

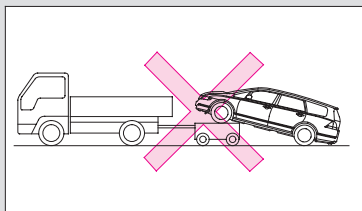
5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。
- 4WD車の場合、前輪または後輪を台車に乗せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。



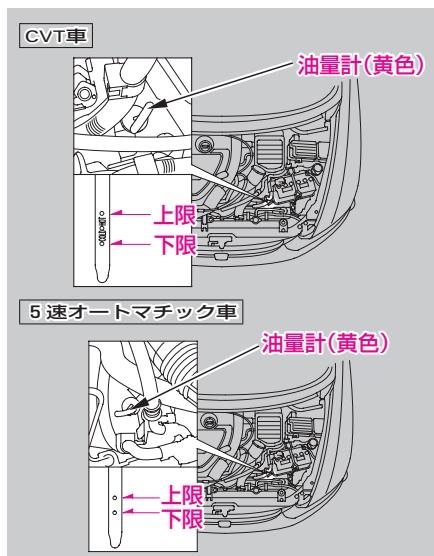
● CVT車

エンジンがかかっていない状態でけん引されるとトランスミッションが損傷する場合があります。

けん引される時 (ロープによるけん引)

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

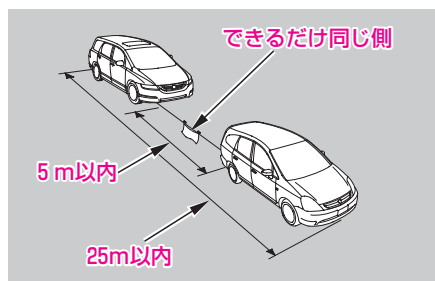
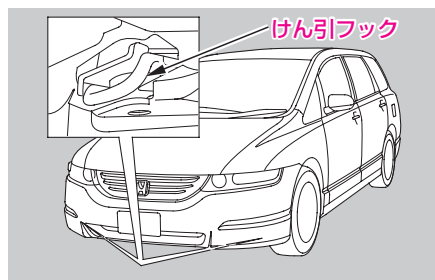
- ① トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。



下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。



- ②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。



- ③エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“Ⅰ”または“Ⅱ”にします。

- ④セレクトレバーをⅣ(ニュートラル)にします。
- ⑤パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
- ⑥速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。



アドバイス

- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
 - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
 - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
 - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。



知識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
 - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
 - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。



故障車をけん引するとき

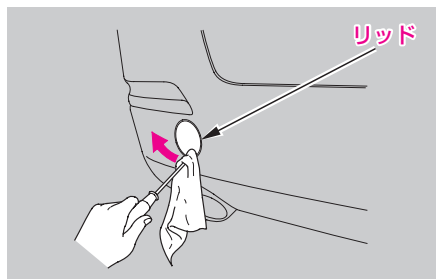
やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

- ①カーゴルームのトランクリッドを開け、工具袋を取り出します。

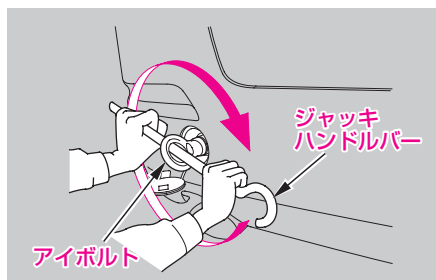
格納場所 →386ページ

- ②工具袋からドライバー、グリップ、ジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出します。

- ③マイナスドライバーの先でリッドを開けます。



- ④アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーなどをかけて確実に締めつけます。



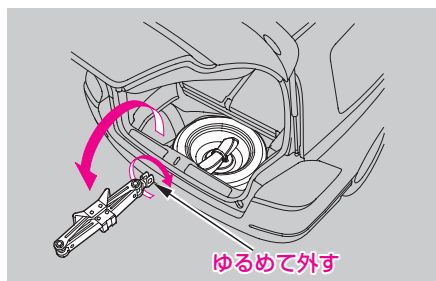
🚗 アドバイス

- アイボルトにロープをかけるときは、車体の破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
 - ・アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
 - ・けん引時にアイボルトに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
 - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。

パンクしたとき

ジャッキの取り扱い

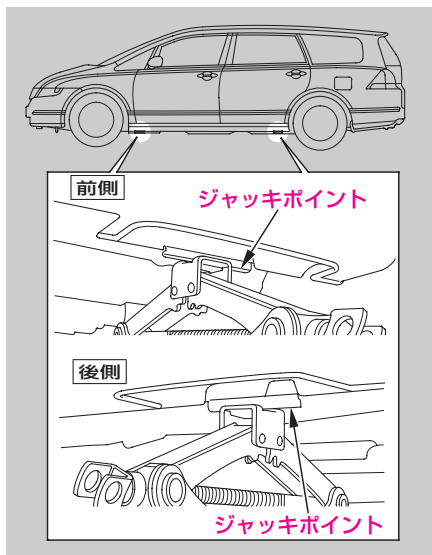
- ジャッキの取り出しかた
ジャッキをゆるめて外します。



知識

- ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

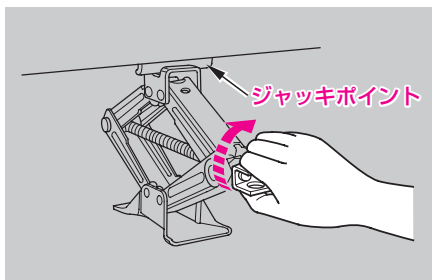
●ジャッキをかける位置



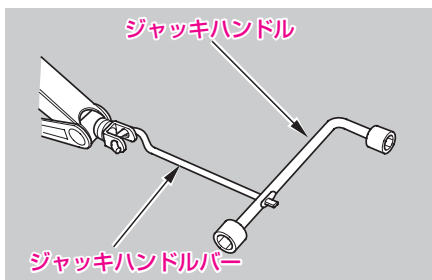


● ジャッキのかけかた

- ① 地面が固い平らなところに車を停めます。
- ② パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。
- ③ ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



- ④ ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠ 警告

- 車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万ー、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠ 注意

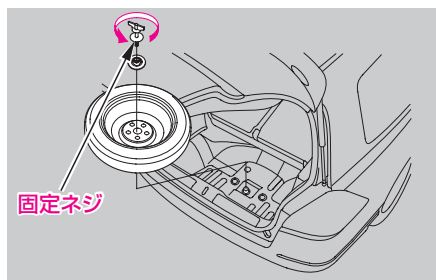
- ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
 - ・ エンジンをかけたままにしない。
 - ・ 地面が固い平らなところ以外では使用しない。
 - ・ 指定された位置以外にかけない。
 - ・ 人や荷物をのせたままにしない。
 - ・ ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
 - ・ タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

📖 知識

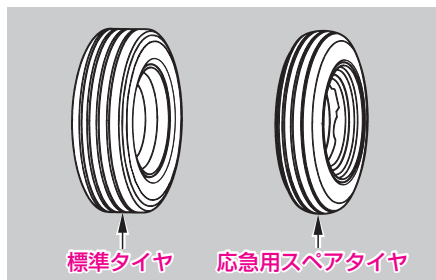
- この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

固定ネジをゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。



お使いになるときは次のことをお守りください。

知識

- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。

指定空気圧：

420 kPa (4.2 kgf/cm²)

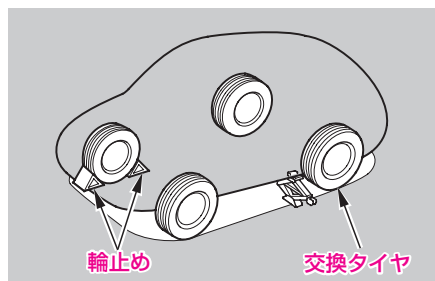
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。



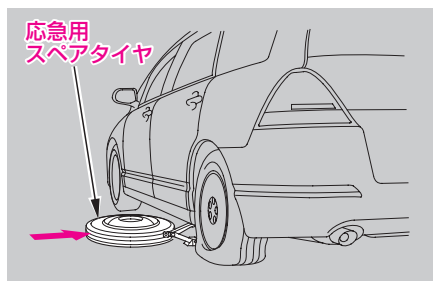
タイヤ交換

1 はじめに

- ①車を地面が固く平らで安全な場所に止め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。
- ②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。



- ③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

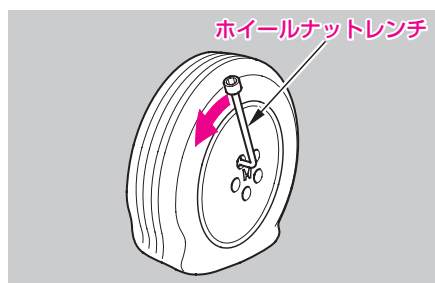


2 ジャッキで車体を上げる

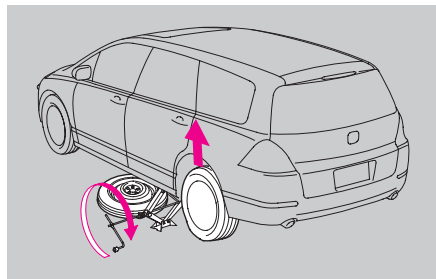
①ジャッキをセットします。

ジャッキをかける位置 →396ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめます。

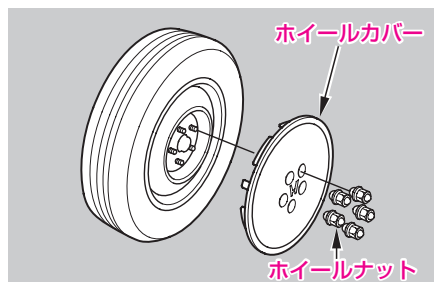


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3 タイヤを交換する

①ホイールナット、ホイールカバー(タイプ別装備)を外し、タイヤを外します。

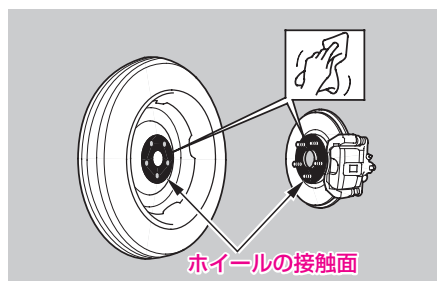


知識

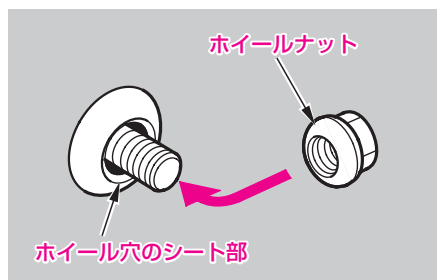
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。
- ホイールカバーは、ホイールナットを外さないと取り外しができません。ドライバーなどで無理にこじらないでください。



- ② 応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



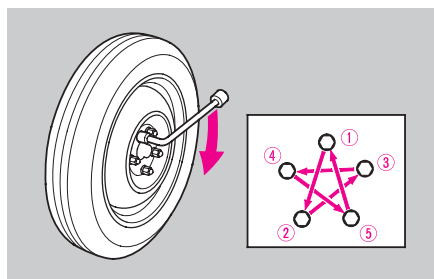
- ③ 応急用スペアタイヤを取り付けます。
④ ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



- ⑤ ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかき締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:

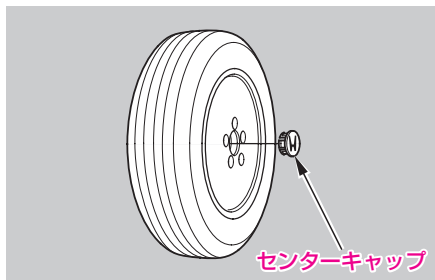
98 – 118 N·m (10.0 – 12.0 kgf·m)



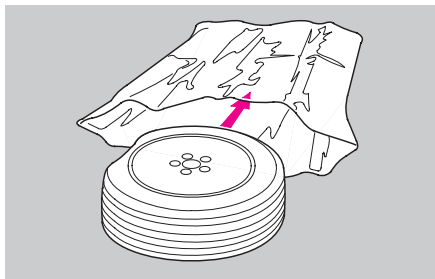
4 標準タイヤを収納する

① アルミホイール装備車

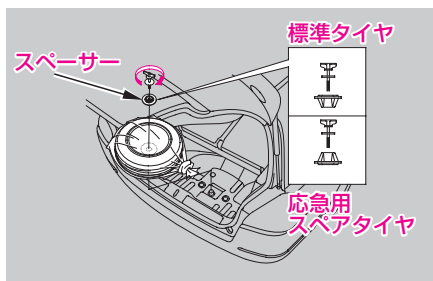
パンクした標準タイヤはセンターキャップを外します。



② 応急用スペアタイヤ収納部にあるタイヤ収納袋を取り出し、タイヤを入れます。



③ パンクした標準タイヤの表面を下にし、スペーサーを、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。



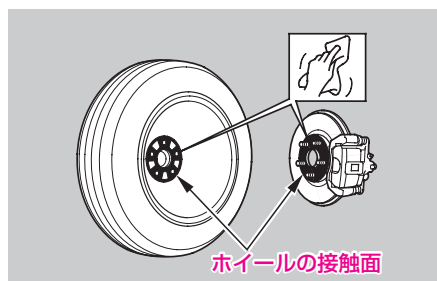
知識

- 標準タイヤを収納しているときは、サードシートを収納できません。



5 標準タイヤを取り付けるときは

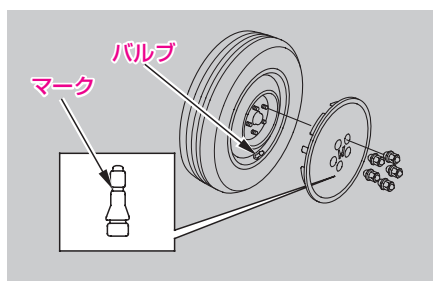
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



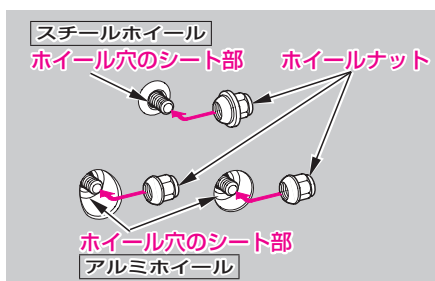
知識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②ホイールカバー(タイプ別装備)を取り付けるときは、カバー裏側にあるマーク部がバルブの位置にくるようにします。



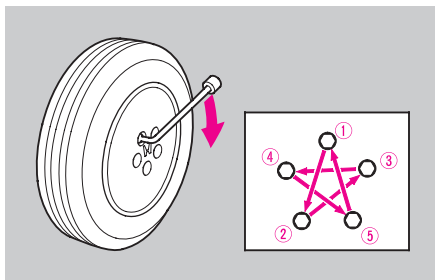
- ③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



- ④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

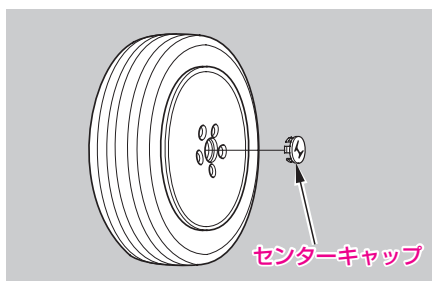
ホイールナット締め付けトルク:

98－118 N・m (10.0－12.0 kgf・m)



- ⑤ **アルミホイール装備車**

センターキャップを取り付けます。



 **アドバイス**

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や、摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

知 識

- この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらHonda販売店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の固い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧 →479ページ

● **ホイールカバー装備車**

ホイールカバーは、ホイールナットを外さないと取り外しができません。
ドライバーなどで無理にこじらないでください。

● **アルミホイール装備車**

パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

オーバーヒートしたとき

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針が“H”の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。

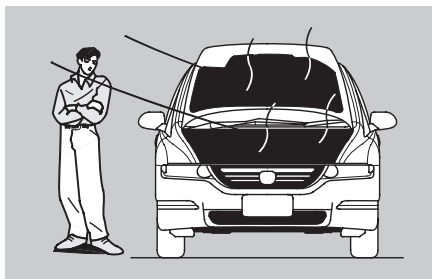
蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。

冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

処置のしかた

- ①車を安全な場所に停めます。
- ②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。

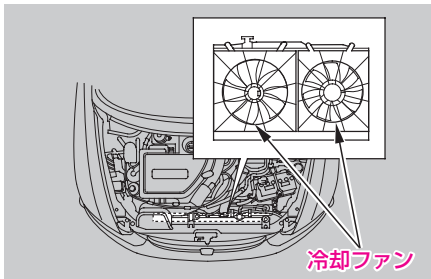


知識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。



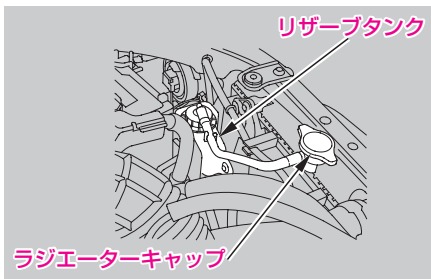
- ③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、Honda販売店へご連絡ください。

- ④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



- ⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

- ⑥なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

次のようなときは、バッテリーあがりです。

- ・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
- ・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。

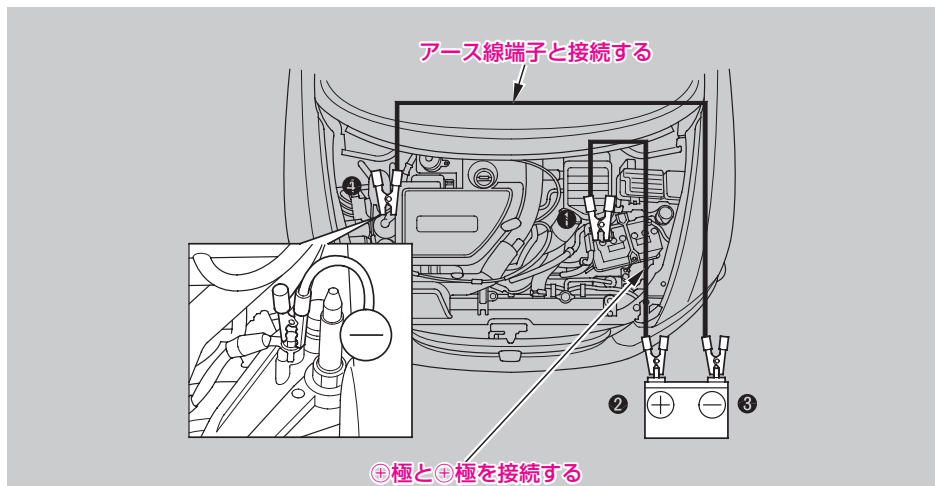
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目

- ①自車のバッテリーの⊕端子
- ②救援車のバッテリーの⊕端子

2本目

- ③救援車のバッテリーの⊖端子
- ④自車のアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。

③自車のエンジンをかけます。

④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。



⚠ 警告

- バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
 - ・ バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
 - ・ 火気を近づけないでください。
 - ・ 帯電した身体でバッテリーに触れないでください。
 - ・ 換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
 - ・ バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
- ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
 - ・ 自車のバッテリーの⊖端子に直接ケーブルをつながないでください。
 - ・ ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
 - ・ ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときはすぐに多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

🎓 知識

- バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。
- ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
- 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
- バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなり、パワーテールゲートは自動で閉まらなくなることがあります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

パワーテールゲートオート作動機能の復帰 →55ページ

パワーウィンドーはさみ込み防止機構 →66ページ

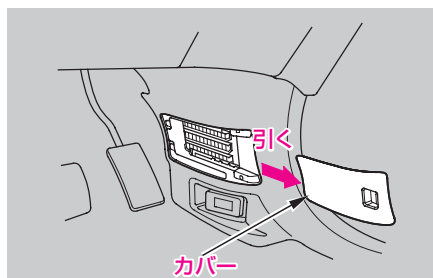
ライト類が点灯しないとき、 電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

- ①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
- ②ヒューズが切れていないかを点検します。
 - ・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示と取扱説明書で確認し、点検します。
- ③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

運転席足元のヒューズボックス



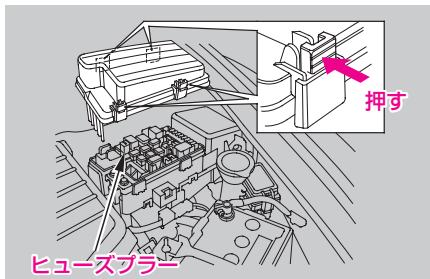


・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		ドライブバイワイヤー	15A
2		イグニッションコイル	15A
3	—	—	—
4		LAFセンサー	15A
5		オーディオ/アンプ	15A
6		室内灯	10A
7		バックアップ	10A
8		ドアロック	20A
9		シガレットライター	20A
10		サイドエアバッグ 自動停止装置	(7.5A)
11		ワイパー	30A
12		電動サードシート	(15A)
13		AC電源	(20A)
14		運転席パワーシート 前後スライド	(20A)
15		電動サードシート	(20A)
16		運転席パワーシート リクライニング	(20A)
17		リヤヒーターモーター	(30A)
18		発電機	15A
19		フューエルポンプ	15A
20		ウォッシャー	7.5A
21		メーター	7.5A
22		SRSエアバッグシステム	10A
23		IGP	7.5A
24		パワーウィンドー後席右側	20A
25		パワーウィンドー後席左側	20A
26		パワーウィンドー 助手席	20A

	表示	装備	容量
27		パワーウィンドー 運転席	20A
28		サンルーフ	(20A)
29		IHCC	(7.5A)
30		エアコン	7.5A
31		E-プリテンショナー	(7.5A)
32		アクセサリー	7.5A
33		オプション	(7.5A)

エンジンルーム内のヒューズボックス

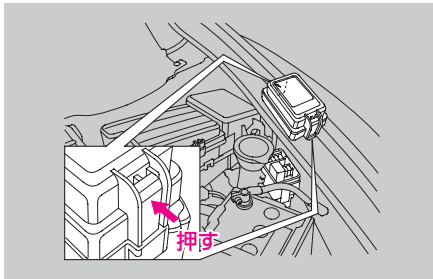


・各ヒューズの装備と容量

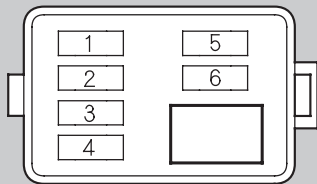
	表示	装備	容量
1		左側ヘッドライト ロービーム	15A
2		リヤデフロスターコイル	30A
3		左側ヘッドライト ハイビーム	10A
4		車幅灯	10A
5		右側ヘッドライト ハイビーム	10A
6		右側ヘッドライト ロービーム	15A
7		バックアップ	7.5A
8		IGP	15A
9		コンデンサーファン	20A
10		(フロントフォグライト)	(20A)
11		ラジエーターファン	20A
12		イグニッション/ クラッチリレー	7.5A
13		ホーン/制動灯	15A
14		リヤデフロスター	30A
15		バックアップ/ アクセサリ	40A

	表示	装備	容量
16		非常点滅表示灯	15A
17		ABSモーター	30A
		VSA MOTOR	VSAモーター* 30A
18		ABS	20A
		VSA	VSA* 40A
19		ECU	40A
20		電動サードシート	40A
21		ヒーターモーター	40A
22		パワーテールゲート	40A
		バッテリー	120A
23		イグニッション	50A
		パワーウィンドー	40A

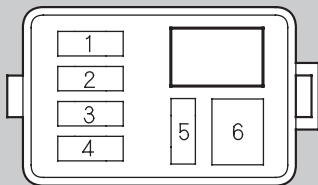
※：VSA装備車



IHCC装備車



IHCC非装備車



・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		オーディオ* ¹	(30A)
2		シートヒーター	(20A)
3		フロントデフロスター	(15A)
4		リアエンターテインメントシステム* ²	(7.5A)
5		運転席 E-プリテンショナー	(30A)
		パワーテールゲート* ³	(20A)
6		助手席 E-プリテンショナー	(30A)
		パワーテールゲート* ³	(40A)

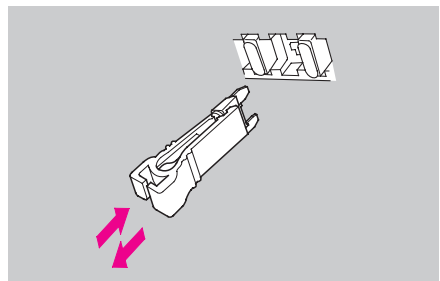
※1：プレミアムサウンドシステム
装備車

※2：リアエンターテインメント
システム装備車

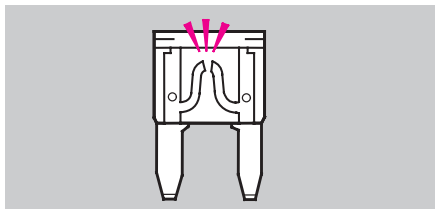
※3：パワーテールゲート装備車

ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。配線コードなどを焼損させる原因となります。

知識

- 運転席パワーウィンドーのヒューズが切れると、ヒューズを交換した後も運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

パワーウィンドー

はさみ込み防止機構

→66ページ

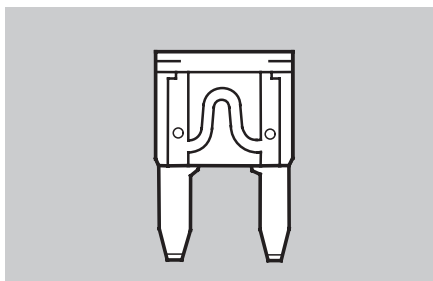
- パワータールゲートを開けた状態でヒューズを交換した場合は、パワータールゲートが自動で閉まらなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

→55ページ

知識

- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。

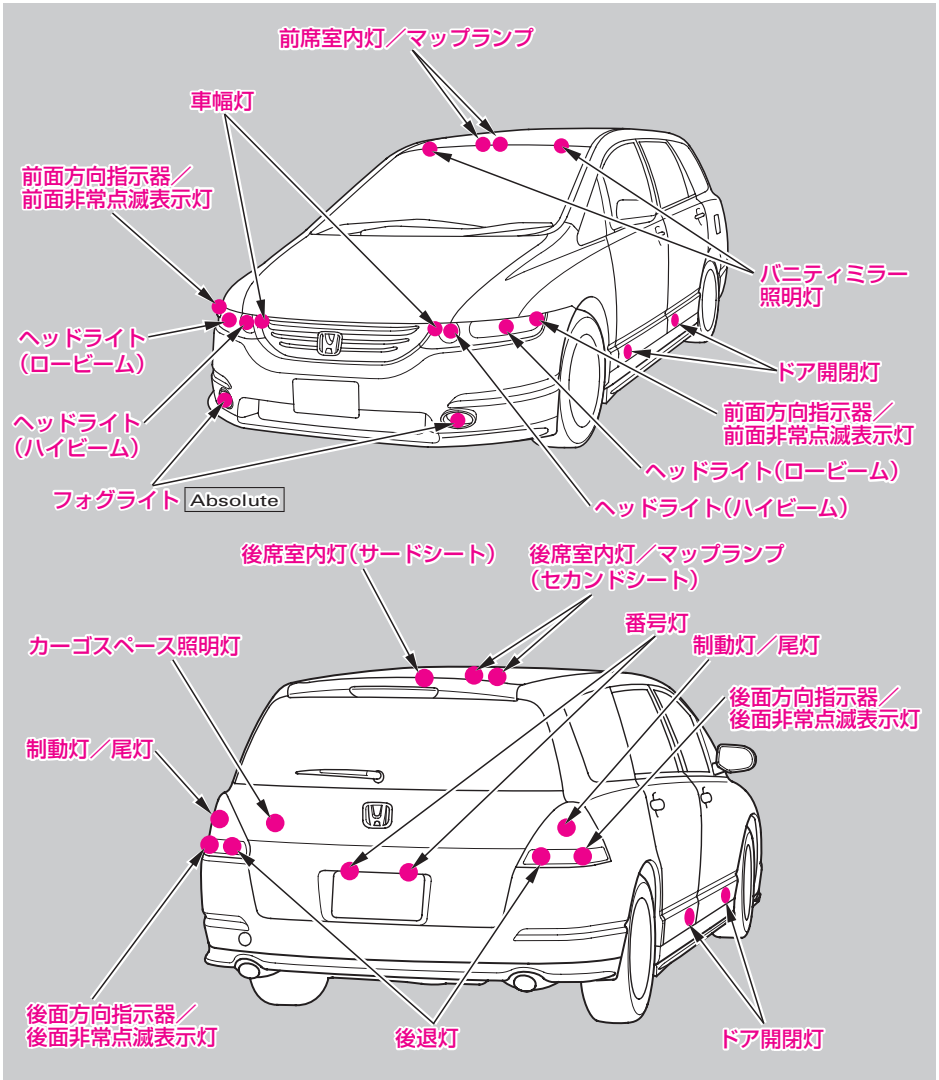
知識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。
- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。



●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。



知識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。
電球のワット数 →476ページ
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
取り扱いには十分に注意してください。
また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。
使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水 droplet がついているときやランプ内に水がたまっているときは、Honda販売店にご相談ください。



ヘッドライトについて

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライト(ロービーム)の電球切れの点検、交換は必ずHonda販売店で行ってください。

⚠ 注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

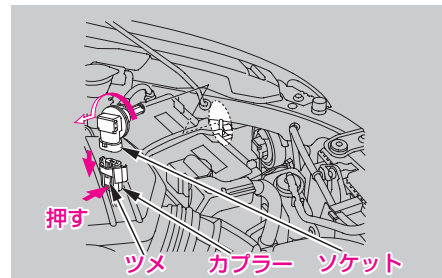
ヘッドライト(ロービーム)

ハロゲンヘッドライト装備車

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて →418ページ

ソケットを左へ回して外し、カプラーのツメを押しながら電球を抜き取ります。



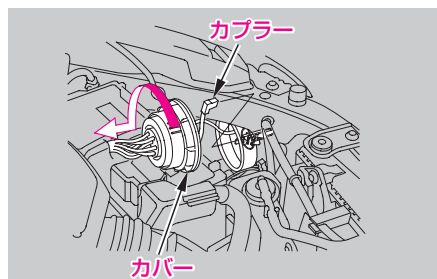
ヘッドライト(ハイビーム)

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

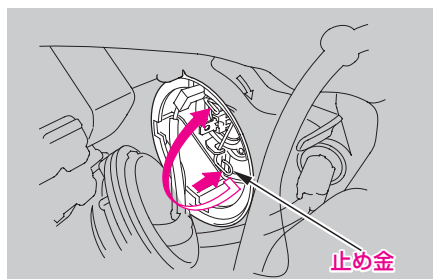
ハロゲンバルブについて →418ページ

AFS装備車

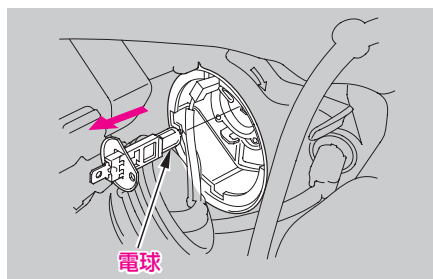
- ①カバーを左へ回して外し、カプラーを外します。



- ②止め金を外します。

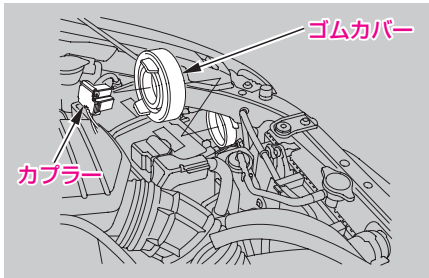


- ③電球を外します。

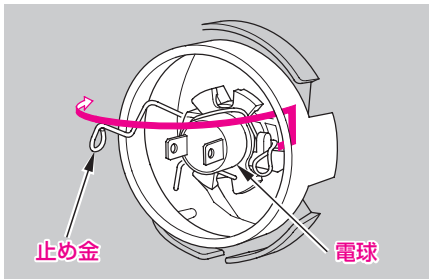


**AFS非装備車**

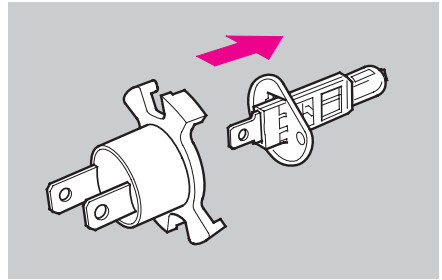
- ①カプラーを抜き取ります。
- ②ゴムカバーを外します。



- ③止め金を外し、電球を外します。



- ④電球本体を抜き取ります。



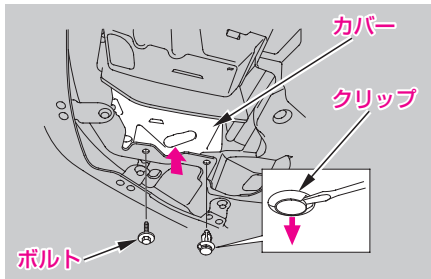
フォグライト

Absolute

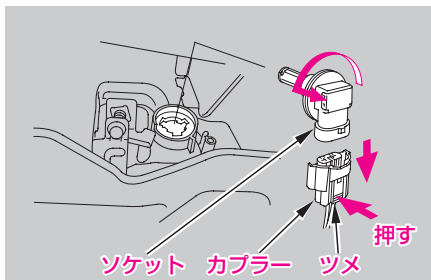
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて →418ページ

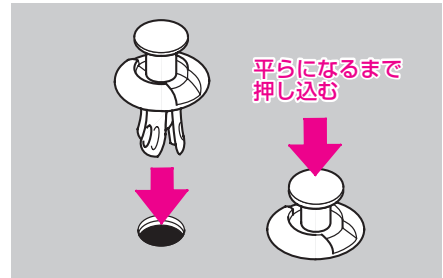
- ①交換する側のスポイラーから、ボルトを取り外します。
- ②クリップを外して、カバーを内側にめくります。



- ③ツメを押してカプラーを外しソケットを左に回して外します。



カバーを固定するときは、クリップ中央部のピンを起こしたままカバーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

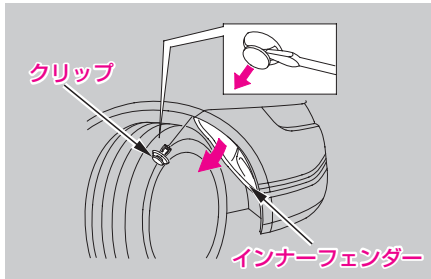




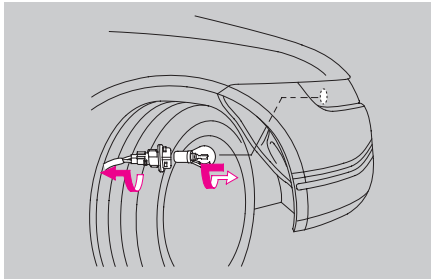
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

AFS非装備車

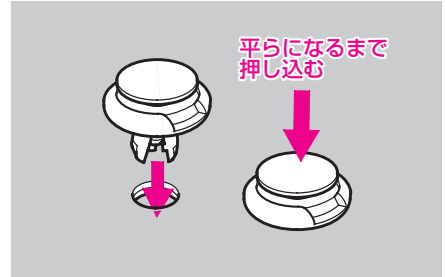
- ① 交換する側と反対にハンドルをいっばいに切ります。
- ② クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



- ③ ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。



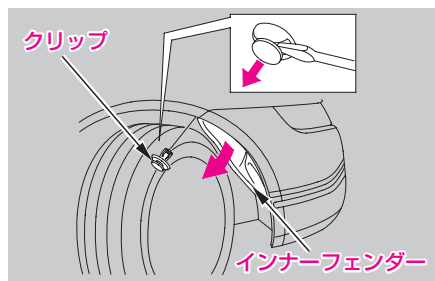
インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



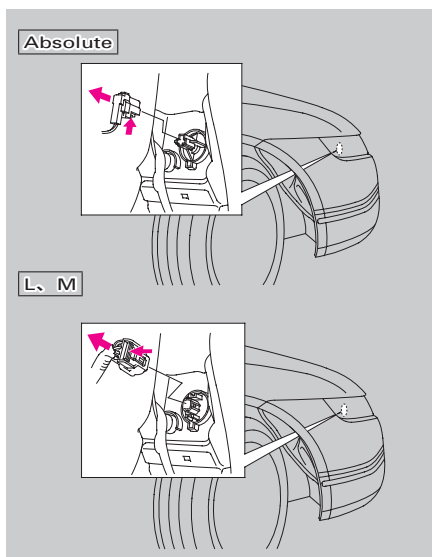
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

AFS装備車

- ①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。
- ②クリップを外してインナーフェンダーをめくりします。



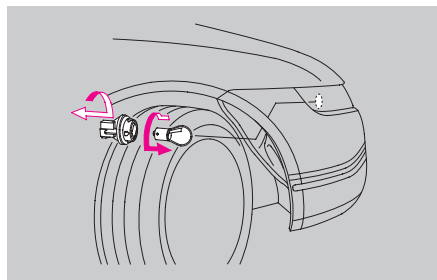
- ③カプラーを外します。





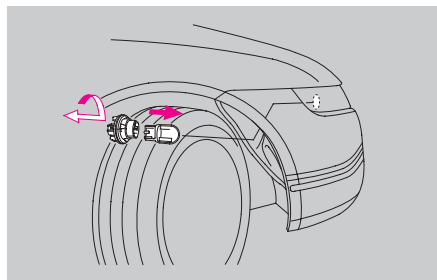
④ Absolute

ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

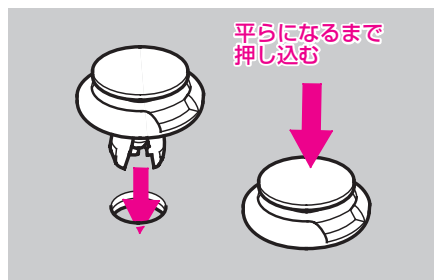


⑤ L、M

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

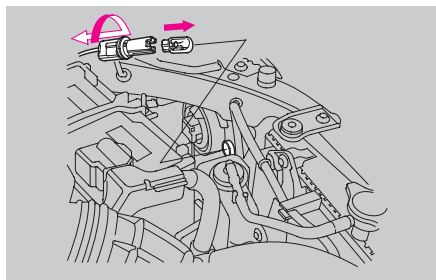


インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



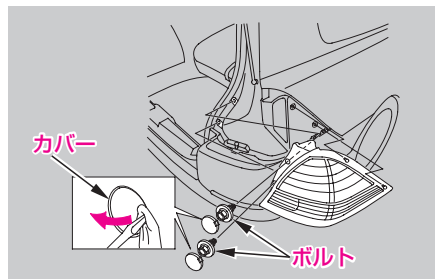
車幅灯

- ①ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

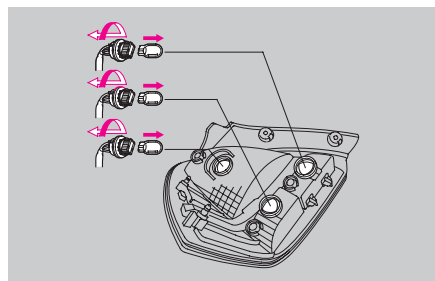


制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯、後退灯

- ①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。
- ②ボルトを外してランプ本体を外側にずらすようにして外します。



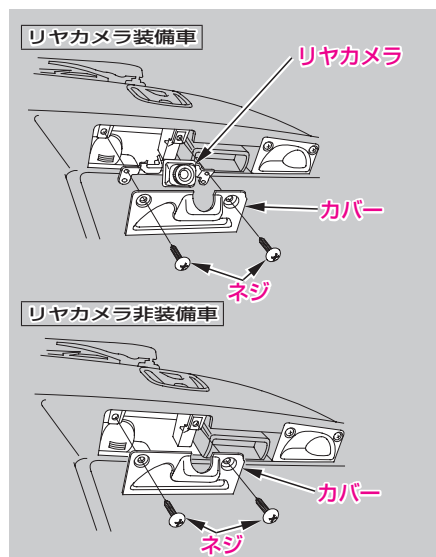
- ③ソケットを左に回して外し、電球を抜き取ります。



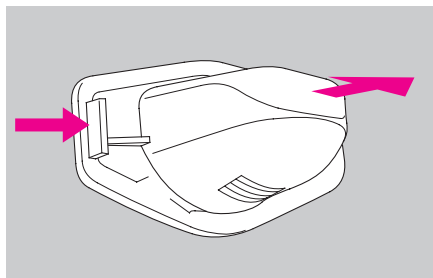


番号灯

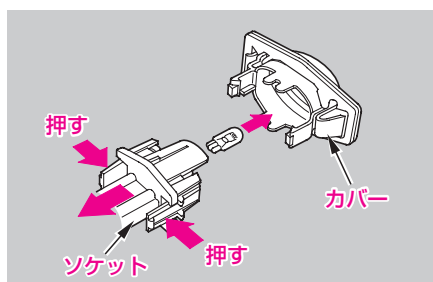
①ネジ2本を外してカバーを取り外します。リヤカメラ装備車はカメラも外します。



②側面を押し、ランプ本体を外します。

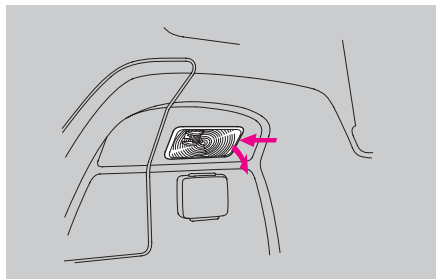


③ソケットの両端を押しながら外し、電球を抜き取ります。

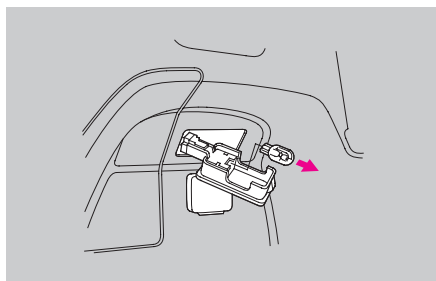


カーゴスペース照明灯

①側面を押し、ランプ本体を外します。

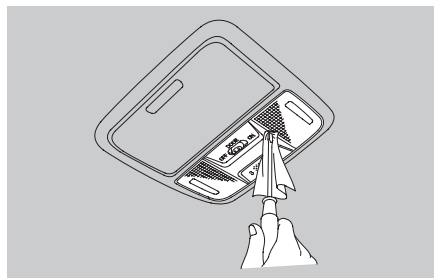


②電球を抜き取ります。

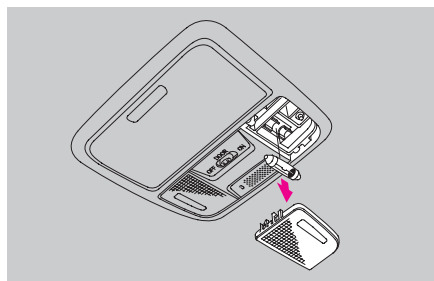


前席室内灯／マップランプ

①レンズを押しすすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。



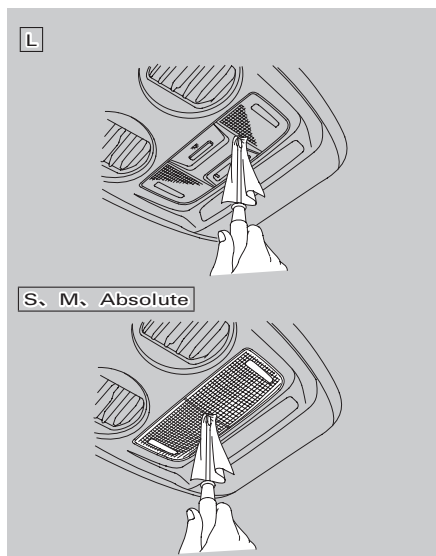
②電球を抜き取ります。



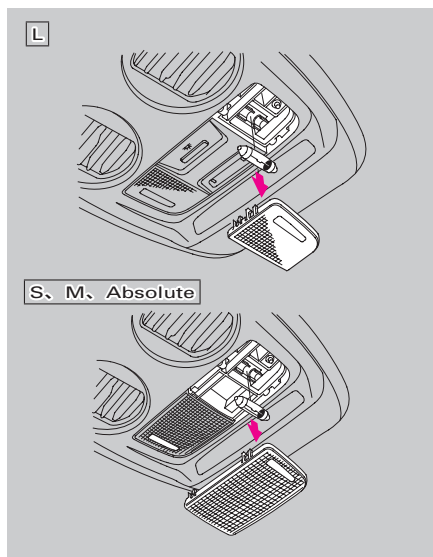


後席室内灯／マップランプ(セカンドシート)

① レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

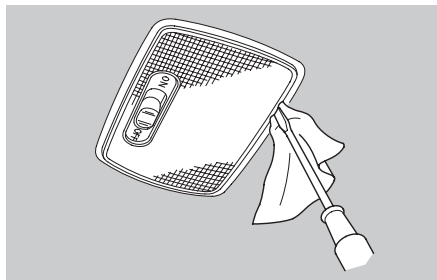


② 電球を抜き取ります。

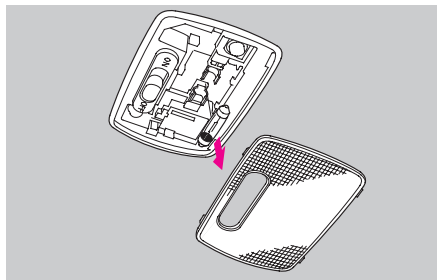


後席室内灯(サードシート)

①レンズを外します。

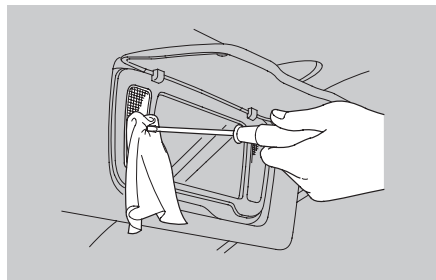


②電球を抜き取ります。

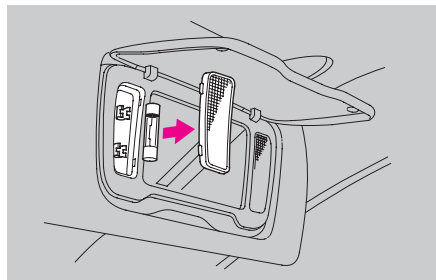


バニティミラー照明灯 タイプ別装備

①レンズを外します。



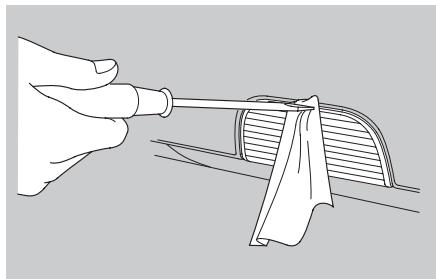
②電球を抜き取ります。



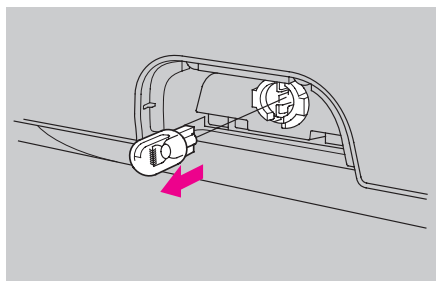


ドア開閉灯

①レンズを外します。



②電球を抜き取ります。

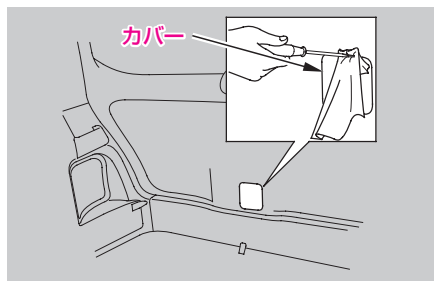


パワーテールゲートが 開かないとき

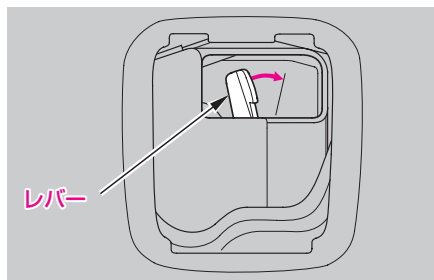
パワーテールゲート装備車

万一、パワーテールゲートを開けることができなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠レバーを右の方向に動かして開けてください。

①パワーテールゲートのカバーにドライバークバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②レバーを右の方向に動かした状態で、パワーテールゲートを内側から押して開けます。



⚠ 注意

- パワータールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

🎓 知識

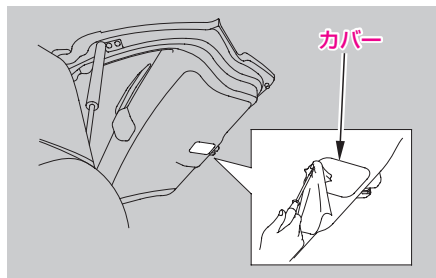
- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

パワータールゲートが確実に閉まらないとき

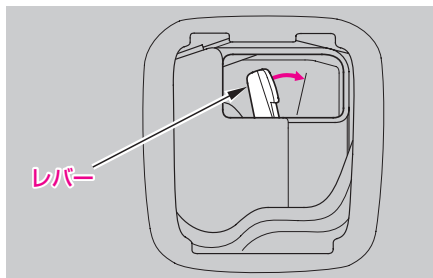
パワータールゲート装備車

万一、パワータールゲートを確実に閉めることができなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠レバーを右の方向に動かして閉めてください。

- ① パワータールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



- ② レバーを右の方向に動かします。手を離すと、レバーは元の位置に戻ります。



- ③ パワータールゲートを閉めます。

🎓 知識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

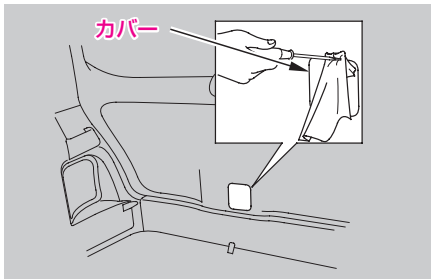


テールゲートの解錠ができないとき

パワーテールゲート非装備車

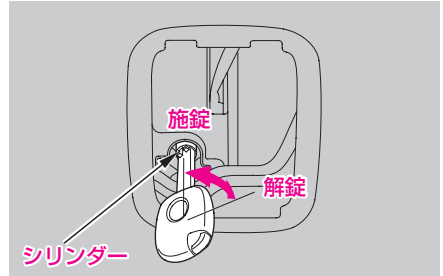
万一、テールゲートが解錠できなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠シリンダーにキーなどを差し込み矢印の方向に回して解錠してください。

- ①テールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



- ②シリンダーにキーなどを差し込み右の方向に回し、テールゲートを解錠します。

テールゲートの開閉 →60ページ



テールゲート解錠シリンダーを左方向に回すと施錠します。

知識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

電動サードシートが作動しないとき

電動サードシート装備車

万一、電動でサードシートを元に戻せなくなった場合は、応急処置として手動でシートを操作できます。

⚠ 注意

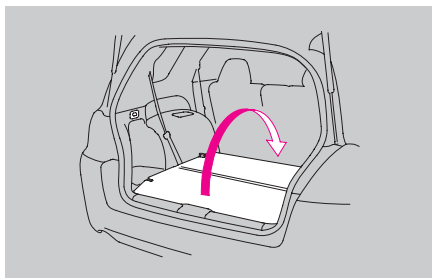
- エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たないでください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などはさまないように十分注意してください。

🎓 知識

- 座面の操作はモーターの負荷がかかるため、重くなります。
- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

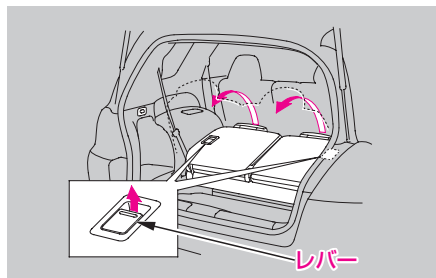
●元に戻すとき

- ① シート全体を前方に起こし、座面を固定します。

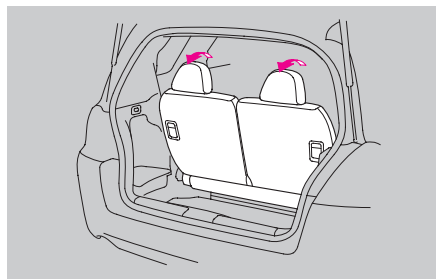




- ②レバーを引きながら背もたれを起こして固定します。



- ③ヘッドレストを起こします。



知識

- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

●収納するとき

知識

- 前に倒れた背もたれが何らかの原因でロックしていないと、収納動作に移りません。背もたれと座面の間に物がはさまっていないか確認し、背もたれを手で押せばロックしますので、収納動作に移れます。それでも作動しないときは、Honda販売店にご相談ください。

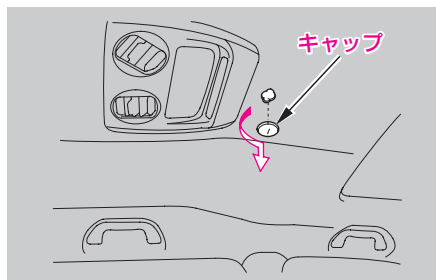
サンルーフが作動しないとき

サンルーフ装備車

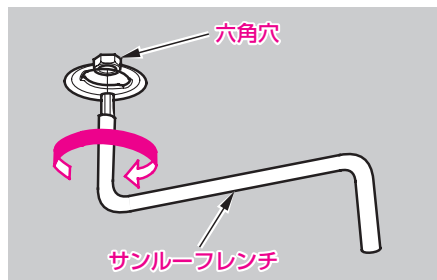
万一、電動でサンルーフが閉まらなくなった場合は、応急処置として工具袋内のサンルーフレンチを使って閉めてください。

工具 →387ページ

①後席ルーフ中央のキャップを外します。



②六角穴にサンルーフレンチを差し込んで回します。



知識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。